

令和7年度 第1回 九段中等教育学校 学校経営評議会 会議録

日 時 令和7年7月14日（月） 午前10時から午前11時24分
場 所 九段中等教育学校 九段校舎 会議室

内容

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 学校経営評議会委員等の自己紹介
- 4 会長・副会長の選任
- 5 令和7年度 学校経営方針の説明
- 6 その他
- 7 閉会

○経営企画室長 おはようございます。

ただいまより「令和7年度千代田区立九段中等教育学校第1回学校経営評議会」を開会させていただきます。

本日は、御多用のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

このたびは、新たに学校経営評議会の委員御就任に承諾いただきまして、誠にありがとうございます。

開会に先立ちまして、本来ならお一人お一人に委嘱状を交付させていただくべきところでございますが、時間の制約もございますので、席上への委嘱状の配付をもちまして委嘱状交付に代えさせていただきます。委員の皆様、任期2年間よろしくお願いいたします。

なお、本会議は原則として公開となります。したがって、傍聴希望があれば許可をし、会議内容を録音させていただき、議事録は発信者匿名の上、その要旨を学校のホームページに掲載し、公表といたしますので、あらかじめ御了承のほど、よろしくお願いいたします。

なお、今回は傍聴者の方はいらっしゃいません。

また、千代田区では、毎年度、公共関係等団体名簿というものを作成しておりますが、この中で本校の学校経営評議会も各委員の皆様の御名前のみを掲載させていただいておりますので、御了承のほど、よろしくお願いいたします。

個人の住所や電話番号は記載せず、お名前のみとなっております。そちらについて、名簿記載は遠慮したいという場合は、事務局まで後ほどお申し出ください。

それでは、開会に当たりまして、本校の校長から御挨拶をさせていただきます。

○校長 おはようございます。

本日は、御多用のところ、また、台風が近づいているところ、御参加いただきましてありがとうございます。

また、委員のお引き受け、本当にありがとうございます。

本校は、今の状況でいいますと、中間考査も終わり、体育祭は5月に終了して、これから九段祭に向けて生徒は活動しているところです。

本校の活動等については、海外からの訪問者ですとか、あるいは全国から訪問者等、既に相当数の方々がいらっしゃっています。国内でも教育委員会や県議会等、市議会議員であったり、あるいは学校の校長等も多数見えております。本校は特に教育DXハイスクール、また、生成AIパイロット校というようなところでも注目を浴びておりますし、探究についても相当注目を浴びております。今後についても問合せが多数来ているところでもあります。

この辺りについてはまた後ほど詳しく説明させていただきますけれども、例えばこの『エッジソン・マネジメント』は今年に入ってから発刊されたものなのですが、産学官連携をやっている九段中等の取組を掲載していただいているということがあり、全国の書店に並んでいるところです。また、ひろゆきでしたか。2ちゃんねるを開設した方が九段中等の取組について絶賛して、ぜひこういった学校をもっとつくるべきだと言って、AbemaTVでそれも全国に流れているというようなところもありまして、いろいろ着目されているところかなと思います。

今回は昨年度の状況報告と、また、今年度の取組方針について後ほど説明させていただきますけれども、学校経営について御助言等をいただければと思います。

本日はよろしくお願いいたします。

○経営企画室長 ありがとうございます。

それでは、これより学校経営評議会を進めてまいります。今年度、委員の皆様の任期が改まりました関係上、現時点では会長及び副会長が選任されておられません。選任するまでの間、引き続き私が議事を進めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

では、新たな委員等の構成となり、また、今年度初めてでございますので、委員の皆様から自己紹介をお願いしたいと考えております。お手元に資料2で委員等名簿が配付されております。そちらを御覧いただきまして、この名簿順に自己紹介をお願いしたいと思います。自己紹介の後に会長、副会長の選任がございますので、過去にも本評議会の委員を経験されている皆様はその経歴等も含めて御紹介いただければと存じます。

なお、名簿の順番1番の池本委員でございますが、少々遅参するという連絡が入っておりますので、加藤委員より自己紹介をよろしくお願いいたします。

(自己紹介省略)

○経営企画室長 どうもありがとうございました。

続きまして、本協議会を運営するに当たり、会長、副会長を選任する必要があります。会長、副会長の選任につきましては、お手元にお配りしております資料1「九段中等教育学校 学校経営評議会設置要綱」の第5条第1項の規定により、委員の皆様の互選により定めるということになってございます。委員からの発議・推薦等がございましたら、まず

そこを確認させていただき、いらっしゃらない場合は投票という形で選出とさせていただきたいと考えております。

まず、推薦あるいは自薦の発議がございましたら、お願いしたいと思います。挙手でよろしく願いいたします。いかがでしょうか。

高田委員、どうぞ。

○高田委員 私からは会長として原田さん、それから、副会長として池本さんを推薦したいと思います。

○経営企画室長 ただいま、高田委員より会長には原田委員、副会長には池本委員という御提案の発議がございましたが、皆様、いかがでしょうか。よろしければ、拍手を。

(全員より拍手あり)

○経営企画室長 ありがとうございます。

それでは、ただいま御報告いたしますが、会長は原田委員、副会長は池本委員にお願いいたします。

早速ではございますが、ただいま会長、副会長に選任されましたお二方につきましては、それぞれ会長席、副会長席のほうに御移動いただきたいと存じます。よろしくお願いします。

それでは、会長より、会長就任に当たりまして一言御挨拶をお願いいたします。

○会長 皆様の御信任を得て、会長ということになりました。改めて、原田忠禮でございます。よろしくお願いいたします。

この学校経営評議会については、もう20年も前になりますが、東京都から九段高等学校が千代田区に移譲され、九段中等教育学校になったときからこの学校経営評議会というのが設置されまして、現在に至っております。その背景には、当然、学校の経営、運営に携わり、支援をしていくということがメインとしてございます。また、その際に千代田区と東京都、九段高等学校がお約束をした中身の履行についても見させていただきますよというのが趣旨としてございました。そういうことを踏まえて、より一層九段中等教育学校が発展していくように、この学校経営評議会がお役に立てるように、私も微力ながら努力をしてまいりたいと思いますので、ぜひ皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

○経営企画室長 どうもありがとうございました。

続きまして、池本副会長より就任の御挨拶をよろしくお願いいたします。

○副会長 全く同じで申し訳ございません。一生懸命やらさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。短いながら、これで挨拶に代えさせていただきます。

○経営企画室長 どうもありがとうございました。

原田会長、池本副会長、何とぞよろしくお願いいたします。

それでは、ここから以降、原田会長に議事進行をお願いいたしますので、よろしくお願いいたします。

○会長 それでは、改めて、本会議の次第に従って議事を進行させていただきたいと思い

ます。

なお、発言につきましては、挙手の後、私が指名してから発言されるようお願いをいたします。

それでは、配付資料の確認について事務局からお願いをいたします。

○事務局 それでは、配付資料の御説明を事務局のほうからさせていただきます。

皆様のお手元に次第がございます。次第の下半分に配付資料一覧を載せてございます。

まずはこの次第、それから、資料1といたしまして学校経営評議会の設置要綱。

資料2、評議委員の皆様の名簿。

それから、資料3で席次表。

具体的に資料4からこの後の本日の資料になっています。

資料4、本校の学校経営方針でございます。

資料5 グランドデザインなのですが、これが今ちょうど配りました資料と差し替えになっておりますので、よろしくお願いいたします。

資料6が昨年度の重点目標と数値目標でございます。

資料7がクリップどめにしておる幾つかの資料でございます。最初にそれぞれの所管からの今年度の経営方針についての説明資料でございます。頭から未来貢献部、CNV室、知の創造部、豊かな心育成部、SMP部というそれぞれの分掌からの今年度の経営方針でございます。

そして、最後に各学年ごとに、第1学年から第6学年までの今年度の経営方針がそれぞれの学年主任から作成の資料が1学年から6学年までということでクリップどめをしてある資料でございます。

以上、万が一お手元に資料の不足等がございましたら、お申し出いただければすぐ事務局のほうからお持ちいたしますので、よろしくお願いいたします。

こちらからは以上でございます。

○会長 資料のほうはよろしいでしょうか。

差し替えたものは回収されますか。

○事務局 そのまま机の上に置いておいていただければ、後ほど回収させていただきます。御迷惑をおかけしました。

○会長 それでは、学校経営方針の説明に入っていただきたいと思います。

副校長から経営方針の御説明をよろしくお願いいたします。

○後期副校長 学校経営に関しましては校長より申し上げます。

○会長 分かりました。

○校長 では、よろしくお願いします。

まず資料5を差し替えたものを御覧いただければと思います。差し替えたものは、本校の教育目標から4つの力をつけるということを特に示しております。その4つの力が先ほどの資料は示していなかったものですので、新たなものに差し替えました。学校の教育目

標からスクールミッション、スクールミッションは教育委員会から示されるものです。そこから3つのポリシーについて示したものです。

グランドデザインについては本年度はかなりリニューアルしております。教育目標からつけるべき4つの力、創造的思考力、課題解決力、人間関係形成力、意思決定力、これを3つの領域にしまして、それぞれどのように力をつけていくかということで新たに示したものです。

それから、昨年度の学校経営方針に基づき、達成度がどのぐらいであったかというのは資料6を見ていただければと思います。

特にまずは大学入試の共通テスト、この春行われたのですけれども、昨年度から情報が共通テストに入りました。本校でも十数名、満点を取ってはいるのですけれども、情報の部分について本校でも力入れている結果かと思います。

フル型受験というのは、要するに全ての教科、科目を選択するもの。例えば都立の進学重点校ですと70%以上の生徒がフル型で取るように、大学によっては3教科を選択すればいいというようなところもあります。ただ、本校としてはリベラルアーツということで、全ての教科を大事にしようということを言っている関係上、共通テストでもフル型で受ける。フル型で受けると、大学の選択肢が広がってくるということもありますので、本校の場合には昨年度は60%を超えているかなと。以前は50%いなかった状況なののですけれども、それぐらい上がってきているということになります。

フル型で受けた生徒の平均得点が77.9%となっています。実績等はあまり表立って出しているわけではないのですけれども、生徒が頑張った結果ということで、東京大学ですとか京大、東京科学大というのは昨年度までは東京工業大学、東工大と、それから、医科歯科大学ですね。それが合体して東京科学大になりまして、そちらに受かって、医科歯科大学の医学部に受かっております。一橋なども受かっておりますので、いわゆる難関国立大学全てに合格者を出しているというのが昨年度の実績です。

それから、探究については、特に中央に書かれています全国探究コンテスト、これは相当大きな1,400の応募総数があって、そこでグランプリを獲得したということで、内容は、認知症になる手前のフレイルというのですかね。その手前の人たちを何かうまく支援ができないかということで、AIを使いながら支援ができないかというようなものを開発したのですけれども、それが見事グランプリとなっています。

科学の甲子園については、筆記で1位なののですけれども、実験でどうしても1位を取っていないので、総合で1位というのはなかなか難しいところなののですけれども、できればこれも取ってまいりたいと思っております。

それから、生成AI大賞は民間企業等も全部含まれる中、優秀賞をもらっています。これもベスト8ということになるのですけれども、トップを取ったのは名鉄なので名古屋鉄道ですかね。あと、セブンアンドアイホールディングスとか、いわゆる大企業が軒並み出ているところなののですけれども、学校で唯一賞をもらったのが本校ということになります。

それから、募集倍率でA区分というのは千代田区民枠ということなのですが、今まで2倍に行かなかったり1.何倍、あるいは昨年度も2倍ぐらいだったのですけれども、この春の場合では2.78ということで相当上がりました。この辺りもなぜ上がったのかというのは分析していかなければならないのですけれども、たまたま私が小学校を全校回ってキャリア教育ということで話をさせていただいたのですが、その結果が結びついているのであればいいなと思っています。

学校公開については、相当数やはり注目を浴びているようで、つい先日行われた本校の校内での説明会参加希望者は2,000人を超える小学校の保護者が来ております。

本日から学校公開も行われておりますけれども、午後にはプロバレーボールチームの東京グレートベアーズのコラボ授業ということで、情報の中でデータサイエンスを取り扱っていただいて、そういった授業展開なども広げていければなと思っています。

それから、学校経営方針の、本年度で特にというところは、まず学習のところにラベリングリストと書いてあるのですけれども、資料4になります。これはどういうことかというと、先ほどブランドデザインのところで3つの領域ということで話をさせていただきましたが、それぞれの領域についていわゆる学びの姿というのを24示しております。この学びの姿が探究だけではなくて、各教科でも今の授業でどういったところに学びがあるのか、どういったことに力をつけているのかということを示すということで、探究と教科を一体化させていく。そして、これに基づき評価をしていこうというものです。評価については、今年度は外部での評価指標を活用しながら、いわゆるIRを開発していこうということで行っております。

それから、いじめについてなのですけれども、いじめアンケート等を行っておりますが、今年度指導していると、いじめにつながるような行為があるというのが現状です。いじめゼロに向けて心の醸成を行っていくというところであります。

それから、真ん中のところにあるシリコンバレー研修を今年度から実施していきます。探究でSTEAM、グローバル、アントレプレナーシップという3つの柱を掲げておりますけれども、特にSTEAMとアントレプレナーシップに基づき、シリコンバレー研修は今年度は16名の参加、UCLAも16名ということで、海外に行く生徒が30名を超えているところです。シリコンバレー研修はGoogle本社の中に入ったり、あるいはテックの高校があるのですけれども、そこのコラボ授業ということも実施して、なかなか他校では見られないような研修内容となっております。

学校経営上のことでいきますと、先ほどほぼお話しさせていただきましたけれども、外部からの訪問者も非常に多く、今年度も相当多く来ております。この間も、グレートベアーズの監督が英語による授業を行った際、生徒がちゃんと理解をして、そして、英語で対話をしているということに、監督もいい意味で日本の学校ではないみたいだということで評価いただきました。そういった取組を行っていければなと思います。

最後に、学校経営でセブンセブンと書いてあるのですが、これは働き方改革の一つで、

7時以降に出勤してください、7時より前に帰ってくださいというのをセブンセブンと言っています。この1、2、3月は80時間を超える先生はゼロになったのですけれども、4月に入ってから新しく異動された方とかもいて、現状100時間を超えられている方がいて、産業医との面接もしてもらっているところなのですけれども、残業時間はなかなか難しいところではあります。生徒の対応ですとかあるいは保護者対応等もあり、どうしても時間外でせざるを得ない部分があるというところなんです。ただ、この辺りについては、先生の健康管理が当然生徒の指導に直結するものですから、そういったことも改善していければと思っています。

私からは以上です。

○会長 ありがとうございます。

初めて見る資料だと思いますので、今の瞬間に見て、今のお話で理解いただけたのかどうか分かりませんが、何か御質問はありますでしょうか。

○委員 いじめの問題は毎年出てくるのですけれども、いじめの目標をゼロにするというところはやはり何となくバイアスがかかっているのと、アンケート3回という中で取るのも、アクションプランとしてはいいのかもしれませんが、いじめの問題というのは生徒と先生というよりも生徒同士という問題が横たわっていて、なかなかその中に先生たちが入っていけるのかという問題があるのではないかなと思っています。

学校で実施するアンケートで、目標がゼロのものに対していじめがあったという報告を出すこと自体がかなり生徒たちにバイアスをかけているのではないかなとも思います。むしろいじめについての対策というのは、この中にあるどういう指導を行っていくのか、どのように生徒たちと向き合っていくのか。ある私立学校では、生徒会とか生徒の代表者と校長たちが生の会話を実現していく。そういうところでリアルな生徒同士の関係に入っていくというところが求められているのではないかなと思っています。

いじめがゼロになることはとてもいいことだと思うのですけれども、アクションプランを目標設定として、アクションのほうに重きを置いた施策というのが打てないものかなとも思っています。これについて御意見を賜ればと思います。よろしくお願いします。

○校長 数字については、これはゼロ以外書きようがないので、ここは数値目標として出さざるを得ない部分です。

また、アンケートの回数についても、これは法令で決まっているので、これは学校としてはこうせざるを得ない部分です。

ただ、今、御意見がありましたけれども、生徒との会話ですとか、これは既に学校の中で取り組んでいることで、これは数値目標として書き表す部分ではなくて経過の部分になりますので、それをどのようにアプローチしていくかというのは、安全学校サポート会議というものを設置して取り組んでいるということになります。そこでは中身についてもっと詳しく出しています。今日御出席の方で、そちらにも委員として入っていただいている方がいらっしゃると思いますので、そのような形で取り組んでいるということになります。

○会長 よろしいでしょうか。

ほかの方はよろしいですか。

どうぞ。

○委員 今のに関連してというか、年1回なのですが、P.A.も生徒自治会と会合を持っています、その中で要望を聞いたり、そこで個々のいじめの話が出るかというのはもちろん分からないのですけれども、P.A.としても生徒自治会の意見をヒアリングする機会は、年1回なのですが、持っております。

私からは以上です。

○委員 よろしいですか。

いじめというのをどうやって捉えるかということもあるのですけれども、学校の中で行われる犯罪に近いものというのは、グループで行われるものというのは大体上下関係で行われていて、首謀者がいて、それに従って動く者たちがいる。これはいじめと言っていいのかどうか分かりませんが、そういう見えざる支配関係というのがある、それをいじめとしてカウントするかどうか、この辺りというのが私はすごく気になっています。ただ、これはかなり深い人間関係に入り込まないと、そういう上下関係、生徒が生徒を支配している関係というのが見えないのではないかなと思います。この辺りについては、どうやってアンテナを張っているのかということのをぜひお聞きしたいなと。副校長たちからどのような情報収集の取組をされているのかということのを聞いてみたいなと思いましたので、御意見をいただければと思います。

○校長 副校長からも答えますが、まず、いじめについては法令で決まっているので、いじめはいじめを受けたと思う側が傷ついたと言え、それはいじめがあるものとして調査をします。いじめについては、法的にいじめ防止法で提示されていますので、それに従って本校が判断していくということになります。

○前期副校長 日頃、担任とか生徒と接しているに当たって、何か問題が起きたことというのがすぐに管理職と生活指導、豊かな心育成部なのですけれども、そこの主任に話が上がります。そこのところで、支配があるとかそういうところはまた深く入っていかないと分からないのですけれども、こういった関係で嫌がらせになっているのか、嫌だと思っているのかというところを話し合い、あと、聞き取りを行って、それがいじめに該当するのかというところをしっかりといじめ対策委員会というところで協議をして、話し合いを行い、その後、指導に行くという形になっております。

○後期副校長 ありがとうございます。

豊かな心担当は前期副校長なので、私は補足的にお伝えしますと、毎週拡大の豊かな心育成部会というのを実施しています。各学年、1年生から6年生までの生徒指導担当それから副校長、また、生徒の心のケアをしていただいている専門の職にある方たちにも参加していただいて、週1回実施しております。そこで、配慮が必要な生徒等を含めて、生徒の人間関係に起因する課題等も定期的に把握できるようにしているという取組を行っている

ことが一つアンテナになっていると理解しています。

それから、先ほどバイアスというお話があったのですけれども、資料6の令和6年度の実績報告にも書かせていただいていますとおり、いじめの報告は昨年度7件ということを知っておりますので、目指すのは何としてもゼロであるけれども、実際に起こってしまうことに対しては厳格に取り扱っていくというところで、校内で取り組んでいるのかなと考えております。

私から以上です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 ほかの委員の方、よろしいでしょうか。

ありがとうございました。いずれにしても、コミュニケーションを活発に図っていくということと、現在、学校が実施している生徒との対話そのものが継続的に深く続けられて、潜在的ないじめも含めてなくなっていくことを望んでいます。ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

それでは、経営方針の説明をよろしくお願いいたします。

○後期副校長 ありがとうございます。

そうしましたら、この後、副校長2人で説明を進めさせていただきたいと思います。資料7を御準備ください。

私どもの学校では、そちらの資料7のレジュメのところに書かれておりますように、各分掌が5つございます。そのほかに6学年を設置しているところでございます。

未来貢献部という分掌はいわゆる進路部に当たるものでございまして、本校では教育目標の未来貢献という言葉に即して特別にこのように呼んでいるということがございます。

それから、CNV室はto Create New Valueという言葉の略で、本校の特別な分掌として設置しております。先ほど校長からも説明させていただきましたとおり、現在、文部科学省の指定校を複数受けていること、それから、探究的な活動を九段探究プランという形で確立しております、そちらを系統的に、そして、継続的に進めていくためにも必要な分掌ということで特別に設置して強化しているところでございます。

それから、次の知の創造部というところは、いわゆる教務と呼ばれる分掌の本校の教育目標に即した特別な名前と呼んでいる分掌になります。

豊かな心育成部というのは、いわゆる生徒指導、生徒部と言われるところの特別な呼び方で進めさせていただいております。

それから、その次のSMP部というのはSchool Management Promotionの略でございまして、いわゆる学校公開が本日から始まっていますけれども、そういったものであったり、募集活動等に専門的に従事しているスタッフの分掌となります。

そのほか、1から6までの各学年が分掌としてあります。

私ども、2人の副校長で学校を任せていただいているので、担当している分掌がそれぞれ、順不同になってしまうのですが、初めに私のほうから未来貢献部、CNV室、SMP部

について御説明をさせていただいて、その後、前期副校長先生のほうから知の創造部、豊かな心育成部、その後、前期課程の1から3、そして、後期課程の4から6という形で、資料も見づらいかもしれないのですが、行ったり来たりしながらお話をさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最初に、未来貢献部の経営方針を御覧ください。

書かれていることに関しましては、時間の都合もありますので、お読みいただければと思います。

特段にお話ししておきたいと思いますことは、まず2番の重点課題の(4)のところですが、学校推薦型選抜、また、総合型選抜という選抜が大学の入試に用いられるようになっております。本校では九段探究プランと探究活動に力を入れて実績を出している生徒も多くおりますので、そういったところを活用して進学にもつながっていくような生徒が増えていくことも見込んで、今後、引き続き探究プランを所管しておりますCNV室及び進路を所管しております未来貢献部で連携しながら、しっかりと体制づくりをしていこうということで定めております。

また、書かれていないところになるのですが、今年度から大学共通テストの出願がデータによる出願に変更になります。この点は初めてのことになりますので、学校全体としても都や区の指導を受けながら、間違いがないようにしっかりと進めていかなければならないところだと認識しております。特にデータによる出願になりまして、学校への情報提供は同意するという欄にチェックをしなければ公開されないとか共有されない仕組みになっているそうなのですが、どうしても出願指導等で学校としては把握しなければ進路指導を的確に行えないという事情がありますので、その辺りは保護者の方にも御理解いただけるように丁寧に説明を進めて、全生徒にチェックをしてもらえるように進めていく予定でおります。

未来貢献部については以上でございます。

続きまして、CNV室の資料を御覧ください。

ここでは、取り立てては3番の重点課題解決のための具体的方策の(1)の①を御覧ください。先ほど校長よりも御説明申し上げましたけれども、今年度も文科省のリーディングDXスクール及びDXハイスクール、それから、生成AIパイロット校の御指定をいただきました。それに関しまして、本日は、生成AIの取組について、本日の学校公開の時間を活用しまして、5時間目に公開授業及び6時間目に専門家にお越しいただいて、授業の講評や取組について御助言をいただく予定でおります。

それから、(3)の①にございますように、本校ではアントレプレナーシップにも力を入れていこうということで取り組んでおりまして、今年度初めてシリコンバレーに生徒を派遣することになりました。現地との調整は非常に難しいところがあったのですが、CNV室のスタッフの尽力もありまして、校長も含め、昨年度から準備してまいりまして、今年度ようやく実現するところでございます。また、取組については将来御報告できれば

と思っております。

続きまして、資料がちょっと飛んでしまうのですが、SMP部の経営方針を御覧ください。

SMP部ですけれども、これも先ほど校長がお話ししておりましたので、重複してしまって恐縮なのですが、広報活動を担当しております。ありがたいことに児童の皆さんには本校を希望していただく状況が今ありますので、早い段階から受験準備を始められる御家庭も多くて、先日6月22日に今年度初めての学校説明会になりますものが東京都立の10校との合同であったのですが、小学校3年生から、都立学校及び本校の中高一貫教育校を希望したいなと考える保護者の方や児童の方がわざわざブースを訪ねて大盛況であったという状況でございます。

また、次の1週間後だったのですが、6月29日には本校独自の説明会を今年度させていただいたのですが、そちらも3部に分けて実施したのですが、いずれも大変盛況で、関心高く見ていただいているという実感と身の引き締まる思いで、今、来年度に向けた募集活動をSMP部を中心に実施しているところでございます。

私が担当する分掌については以上になります。

続けて、前期副校長、お願いします。

○前期副校長 では、まず知の創造部の経営方針を御覧ください。

重点課題の（3）教科マネジメントの充実を図るところで、その具体的方法、教科会及び教科主任会を月1回程度実施し、教科として組織的な対応力を高めるとありますが、教科内での意思疎通をかなり密に取っておりまして、授業を同時に複数展開して行う授業が多いですので、そのところがずれがないようにというところから、指導の仕方等、OJTを含めて自己研鑽の場、そして、授業力向上を目指して授業を行っております。

（5）不登校に対して学習機会を提供し、誰一人取り残さない学びを実現するとありますが、校内のスペシャルサポートルームが富士見校舎の中に設置しておりまして、生徒に対して居場所を提供する活動を行っています。そこでは、自主学習を行うことや、課題を担当、教科担当から与えられて、それを行うなど、学習活動を行うことで学習機会の確保を行っています。このように、誰一人取り残さない学びを実現するために様々なことに取り組んでおります。

知の創造部は以上です。

続きまして、豊かな心育成部の経営方針です。こちらは重点課題に望ましい人間関係の中で自主・自律の精神を養う。日々の生活指導やホームルーム活動において自ら考えるということを念頭に置いて指導を行っています。また、人権意識を尊重して、自分たちがどのように社会の中で生きていくかということをしかりと教えているということになります。

また、ノーチャイム制度を行っていますので、チャイムがなく自分たちで授業が終わった後、10分間の休憩、授業が始まる前に着席をするということ、当たり前のことなので

すけれども、自己管理能力を重視しております。

先ほどのいじめのところに関わってくることもありますが、重点課題の（３）不安のない学校生活の実現と不登校等の学校不適応生徒の課題解決を図るところで、いじめやSNSによる中傷、仲間はずれを絶対に許さないということで、日々先生方は生徒の観察、また、ちょっとした会話などの中から何か起きていないかということをしかりと見ています。それを先ほどもありました拡大豊かな心育成部会において毎週報告し合い、ちょっと気になることがあればすぐに議題になり、管理職に伝わってくるということになります。個別の対応を行うように、日々先生たちが見守りを行っています。また、学校不適応生徒に対して、保護者のケアを含め、スクールカウンセラーの連携だけではなく、白鳥教室や、先ほども申しましたスペシャルサポートルーム等の協力も図っていきます。また、特別支援を必要とする生徒も若干おりますので、その場合はスクールカウンセラーや巡回の指導員をもっと拡大させて、ケース会議等を行って対応しているということを行っています。

以上です。

○後期副校長 各分掌についての御説明で一度切らせていただいてもよろしいでしょうか。お願いいたします。

○会長 承知しました。

各分掌についての御説明をしていただきましたが、皆さんのほうから御質問等がありましたら挙手をお願いいたします。

○委員 今ちょっとあったのは、白鳥教室ですとかスペシャルサポートルームというお話が出たと思うのですが、これは現状はどうなのでしょう。例えばSSRを利用している生徒はいますか。

○前期副校長 スペシャルサポートルームに登録をして通っている生徒はいます。曜日を決めて何時から何時というお約束を初めにしてくるということになっています。

今後の見通しとしては、学校に来られているのだけれども教室に入れない生徒の居場所として登録をしていくということもあるので、ひょっとしたら急な利用の仕方とか、そういうのもちょっとあるかなと予想しています。

○委員 ありがとうございます。

何で質問したかといいますと、我々はいっかんズという都内の中高一貫校の会長、副会長の集まりがありまして、6月にあったときに、武蔵だったかな。そういった不登校に対しての対応の窓口が、その方がおっしゃるには都にはないと。九段さんはどうされていきますかということをお聞きしまして、私もそこでは認識不足で聞いてみますということで、その後自分で調べたり、社会を明るくする運動の会議などの教育長の発言で取組があるのでなという認識があったものですから、九段はどうなのかな、あるのかなというのが今の流れでした。

○前期副校長 不登校になりつつあるなとか、ちょっと心配だなという保護者の方と話す

ところで、このような制度がありますという御連絡をして、では使ってみようという方に対してもう少し説明をしていくという形で運用しております。

○委員 都立にはなくて、千代田区立だからあるのかなということではないかと思った次第でございます。

○会長 ありがとうございます。

これは数字的には登録されている人数は昨年度と同様ですか。

○前期副校長 今は昨年度より減っていると思います。

○会長 そうすると、その減った分というのは卒業されたということなのですか。

○前期副校長 もう使わなくて大丈夫ですという生徒さんもいらっしゃいます。

○会長 そういうことですか。よくなられたということですね。

○校長 SSRというのは、基本は前期課程のためのものなのです。後期課程については私が運用している感じはあるのです。それは、学習指導要領上36単位まで、いわゆる不登校の場合に、通信教育を行ったとしても、それを履修として認めることができるというようなことが昨年度から新たに加わった関係で、SSRに行ったら出席とみなしてはいるのですけれども、そういったことも含めて生徒の不利益にならないようにということで、そういう活用はしています。

都立の場合には派遣制度があるのですよね。いろいろと他の特別支援学校との連携を含めて、派遣制度ということで、中高一貫校全部がそこの連携の中で外部の人が来て見てもらえとか、あるいはスクールソーシャルワーカーが実際に家庭に訪問する。それでサポートするというような制度は、私が都立の中高一貫校の校長だったときも利用して行ってもらっていて、それもととてもすごくいい支援だったと思いますので、そういう支援はあると思うのですけれども、こういう部屋はないと思うのです。先ほど言ったように、前期課程向けのものですので、後期課程、都立高校にはそういった制度はないのです。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○会長 では、この件に関してはよろしいですか。

では、続いて。

○委員 シリコンバレーの派遣のところが今年からということで、成功していただきたいと思うのですが、2つ聞きたいことがございまして、まず、行く予定の人数と費用負担について教えていただけますでしょうか。

○事務局 今年度のシリコンバレー海外研修の参加人数は16名です。一人当たりの費用は約94万円であり、そのうち5万円が公費で補助が出るので、一人当たりの実質負担額は約89万円になります。

○委員 ありがとうございます。

金額的にはかなり大きいですが、それだけ参加者も多い。逆に先ほどの奨学金みたいなものはこれで使えたりするのですか。

○子ども総務課長 奨学金の件について、奨学金はあくまでも大学進学のための負担でこ

ざいますので、その分は使えないのですが、今、うちの事業で教育ローンの利子補給金という事業を令和6年度から実施しております。上限400万円までで年間のかかった利子につきましては上限10万円まで補助するという仕組みを我が課のほうで実施しております。そういったものをお使いいただきながら、多分本当に御家庭によっては費用負担がかなり大きいかなと思いますので、そういう形での御利用をしていただければよろしいかと思います。

○委員 分かりました。ありがとうございました。

○校長 UCLAも同じぐらいですね。今、アメリカの本土だと、都立高校でもそうなのですけれども、100万が基準になっています。私も前の学校でやっていたときには、例えばOB会が給付型で出して、いわゆる家庭の年収に応じてそういう審査をして出して、それで申し込みができるというような形もやっていますので、そういうことで都立高校などは派遣しているということもあります。

うちはグローバルで海外の研修がとて多いので、ただ、イギリスは安い。イギリスは多分50万行っていないと思います。イギリスに2週間行きますけれども、それはホームステイをしたりということもあり、バンガー大学と連携を取っていますので、それを組み合わせで行けるかなと思っております。

オーストラリアも40万ぐらいですね。それから、シンガポールが30万ぐらい。

○後期副校長 いえ、もうちょっといっていると思います。

○校長 もうちょっといくかな。40万いかないぐらいかなとは思いますが、全て家庭の負担です。

○委員 ありがとうございます。

○会長 では、よろしいですか。

ほかの御質問等はございますでしょうか。

ないようでしたら、続いて学年のほうに入っていただきます。

○後期副校長 ありがとうございます。

時間も迫ってまいりましたので、学年についてはこちらも重点的なところのみお話しさせていただきます。

まず、後期課程からお話しさせていただきます。

4年生ですけれども、今年度、至大荘行事を実施いたします。任意で参加する行事になりますけれども、58名、60名の118名が参加ということで決まっております。7月28日から実施、2泊3日、2泊3日ということで連続して実施する予定でございます。昨日までに漕艇訓練を終了いたしまして、生徒たちは日本ライフセービング協会の講習を受講いたしまして、救命救急の資格を取得したところでございます。また、夏休みに入りましてすぐに遊泳教室というものを実施いたしまして、海での長時間の水泳といえますか泳ぎにも耐え得る力をそこで強化して、育成して、本番に臨むというところでございます。

それから、5年生になります。5年生につきましては、そちらに書かれていますように

今後の進路の決定に向けた大事な学年になるという認識がございます。ですので、オープンキャンパスやキャリア関係のイベント等を実施しながら、子供たちの将来の展望を明確にできるように学校としても支援していきたいと考えているところです。

また、こちらは学校の行事としましてシンガポール研修が今年度秋に予定されております。その他のところに書かれておりますように、介助等が必要になる生徒がおりますので、そういった生徒のサポートを気をつけて実施しながら学校活動を進めていくところでございます。

そして、6年生ですけれども、いよいよ卒業後の進路というところで決定していく段階に入っております。1学期の間の体育祭で行事参加のメインは終了しておりますので、この後は学びにシフトして、それぞれの進路決定に向かっていくところです。

先日、推薦型等の希望者に対する説明会を実施しておりますけれども、30名ぐらい参加している生徒がいました。今後はそういった選抜方法で進路を決めていく生徒の対応等からまず入っていく形で、最後、3月まで、一般の受験を終えるまでしっかり生徒を支援していきたいと思っております。

以上、後期課程の概要でございます。

○前期副校長 続きまして、前期課程1学年から3学年についてです。どこの学年も通して見ていただきますと、九段生スタンダードというのが各学年ごとに設定されております。基本的な内容は一緒なのですが、書きぶりは若干その学年に合わせて書いています。

1年生は「居心地のよい学年 当たり前を当たり前」ということを目標に学年運営を行っています。2年生は「学ぶ 問う 学び合う」ということで学年経営を行っています。3学年は「じんをこころぎす一組織人として一」というところを目標に日頃の学習生活に取り組んでおります。

高校受験がないということで、その先を見据えた進路指導を行いながら、また、自分の時間というものを少し大切にしながら、まず中学生時代、前期課程の時間を過ごしてもらおうという生活指導、進路指導、学習指導を行っているところであります。

まとめてお話ししましたが、流れとしては同じですので、以上となります。

○会長 ただいまの御説明に関して御質問等がありましたら、挙手をお願いいたします。

○校長 1つだけ補足していいですか。今、実は6年生で進路の話が出たのですが、5年生のときにバンガー大学の合格者が1人出まして、6年生の放課後と週末を使って、今、ファウンデーションコースといういわゆる語学研修をオンライン授業で受けているのです。ですので、卒業と同時にバンガー大学に入学できるということで、合格者が1名出ましたので、御報告をしております。

なお、イギリスは3年で学士が取れるものですから、大学院に国内で現役で大学に進むよりは半年早く大学院生になる可能性もあるというところになります。

以上です。

○会長 では、御質問をよろしいでしょうか。

○副会長 今回の話は大変結構なお話だと思いますけれども、私もバンガーに訪問したときに丘の上の川の向こう側の低いところにファウンデーションコースに行っている高校生っぽい日本人がいっぱいたのを見かけました。でも、今の話だとリモートで授業可能だから、イギリスに行かなくても、そのコストをかけないで日本でやることができるというのは、やはりイノベーションだと思いました。私、数年前に行って、それを見て御苦労なことだなと思っていたのが、今、こうやって日本にいらることができるというので、それで、ファウンデーションコースは予備校みたいなものですが、幾らぐらいお金がかかるのですか。

○校長 実際に幾らかはちょっと。

○副会長 そうですか。

でも、ちゃんとした大学ですし、前にも申し上げましたけれども、もしそこで大学に入学したら、先生がおっしゃるように3年で卒業できて、修士課程は1年で出られるので、結局4年でマスターを取れるのですよね。それでいくと、総合本社とかいいところにはバンガーだと就職できるので、九段から1人でもそういう生徒が出れば大変結構なことではないかなと。特に中国人の留学生が減ってきているので、今まで中国人の学生があぶれていたのが、急に潮が引いたようにいなくなったので日本の留学生にとってはチャンスかもしれないですね。

○校長 そうですね。通常であれば卒業してからファウンデーションコースに行くので1年遅れるはずなのですが、それが今既に受けていますので、そのまま大学に入れるというのはすごくメリットかなと。すごくいいケースになるのではないかと。

○校長 そうですね。

今回も前期課程の生徒が第Ⅰ期で4人かな。第Ⅱ期で5人ぐらいですかね。バンガー大学に行くのです。提携を結んでいる関係で短期留学も春に行かせてもらうのですけれども、非常にいい2週間で、学長とも直接話ができるので、あそこは安全な街なものですから、生徒が散歩しても大丈夫な町なので、とてもいいかなと思います。大学入試が本校で受けられるというのが何よりもメリットで、それがいいかなと思います。

○会長 ありがとうございます。

御質問はよろしいでしょうか。

それでは、経営方針の御説明はこれで終了ということにさせていただきます。ありがとうございました。

続いてほかの事項に移りたいと思いますが、教育委員会のほうから。

○教育担当部長 その他で、教育担当部長の大森でございます。

日頃から千代田区の教育行政に御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

教育委員会から1点情報提供をさせていただければと思います。

都内公立中学校等における35人学級の実施についてでございます。先月、国の経済財政運営と改革の方針2025、いわゆる骨太の方針が閣議決定されました。その基本方針の

中で質の高い公教育の再生という項目がございます。その中に2026年度から中学校35人学級実現に向けた定数改善、望ましい教育環境を構築する旨が示されております。

また、東京都の教育委員会からは、区市町村の教育委員会宛てに通知が発出されております。東京都公立中学校、義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程における35人学級の実施について、令和8年度から段階的に学級編制を適正に行うようにとされたところでございます。

こうした経緯を踏まえ、現在、九段中等教育学校前期課程の令和8年度の学級編制についても、都立中等教育学校の動向なども参酌しながら、今、事務レベルで検討を進めているところです。教育委員会において決定した際、改めて御連絡をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上です。

○会長 今の件に関して御質問等がありますでしょうか。よろしいですか。

私のほうでちょっと確認だけですが、ということは、35人学級で来年度の入学者から適用されるということに仮になったとすると、現在の定員が40掛ける4の160名が140になるということでございますか。

○教育担当部長 そうです。

○会長 その可能性がある。分かりました。

よろしいですか。

その他、今、教育委員会のほうからお話ありましたが、それ以外に皆さんのほうから何かございますでしょうか。その他の事項としてあれば、挙手をお願いいたします。

では、よろしいですか。多少お時間が早いのですが、終了といたしますが、よろしいでしょうか。

では、皆さんのほうも問題なければ、本日の第1回目の「九段中等教育学校経営評議会」を終了とさせていただきます。閉会といたします。ありがとうございました。

○事務局 次回の第2回の評議会は11月の開催予定としておりますが、後ほど改めて会長、副会長とも調整させていただいた上で決めさせていただきたいと思っております。

また、私のほうから各委員の皆様には日程調整をメール等で連絡させていただきますので、何とぞよろしくお願いいたします。

日にちまではまだ決まっておりませんので、これから調整をさせていただきます。

あと、こちらから事務的な就任の承諾書等の御提出をお願いしているところでございますが、まだ御提出されていない方は事務局のほうまでよろしくお願いいたします。また、後日の提出ということでも構いせんので、よろしくお願いいたします。

それでは、本日はお疲れさまでございました。